

文学部

文学部生の

リアルな！学生生活

vol.21



文学部生のリアルな学生生活の様子を掲載し、ご父母の皆さまに文学部生の充実したキャンパスライフの風景、また文学部ならではの取り組み等の情報を発信いたします。

国文学専攻の学生として 思っていること

自分の専攻の魅力を尋ねられたとき、皆さんなら何と答えますか。「国文学専攻の魅力は何ですか」「この大学の文学部に入ってよかったと思うことは何ですか」私は大学4年次の夏のオーブンキャンパスで来場者の方からこれらの質問を多く受けました。

国文学専攻の魅力は、何ととっても国語学から上代漢文、近現代まで、幅広い専門分野の先生方からさまざまな興味深い講義が受けられること。そして、専門書が揃っており、いつでも借りて読むことのできる共同研究室があることだと私は思います。また、国文学専攻の学生が所属できる国文学会では、国文学専攻の教授と一緒に文学に



福原学長（中央）と学長賞給付奨学生たち（筆者右から2番目）

縁のある場所を散策する「文学さんぽ」や、歌舞伎などの芸術鑑賞会が行われています。私は6月に国立劇場での歌舞伎鑑賞教室で、坂東巳之助さんのご指導のもと、実際に舞台上上がって歌舞伎の所作を学ぶという貴重な体験をしました。本や資料を読んで論じるだけでなく、文学や文化を肌で感じることもできるのも国文学専攻の魅力だと感じています。

やりたいことにすぐ挑戦できる 環境

中央大学文学部は、主専攻以外にもさまざまな学びや経験をする機会が多

くあり、何かに興味を持ったときにすぐ行動しやすい環境が整っています。たとえば、私は国文学専攻のほかに教職課程を履修し、副専攻として哲学を学んでいます。

副専攻では、主専攻の学生しか履修できない演習の授業を履修することができます。私が受けた哲学の演習は少人数であったため、皆で輪になって先生の講義を拝聴しながら議論しました。国文学と哲学は一見異なる分野のようにも思えますが、思想や考え方を読み取り解釈し、自分のなかに取り込むことは、どの学問にも共通していることだと思えます。私にとって副専攻



国文学研究室の書庫にて

さまざまなことに挑戦 できる文学部

——国文学専攻の魅力

てしま さくら こ
手島 桜子

文学部人文社会学科国文学専攻4年
国立筑波大学附属高校（東京都）出身

は、学問の横のつながりを実感し、新しい知見を得られる有意義なものになりました。

そして、教職課程の授業には明確な同じ目標を持つ仲間がたくさんいます。彼らと真剣に教育問題や授業について考えて討論し、課題に取り組んだ経験は、自己を形成するうえで無くてはならないものになりました。他教科の免許状の取得をめざす人など、他専攻や他学部の人とも議論ができることも魅力の一つだと思います。

また、文学部は自由でゆったりとした雰囲気があるため、サークル活動に従事する学生も多いと感じます。私は「学術連盟文学会」と「混声合唱こだま会」という二つのサークルに所属しています。文学会では毎年、白門祭で作家の先生をお呼びします。2017



「混声合唱こだま会」第50回定期演奏会での集合写真

年度は私が推薦人となり、芥川賞作家の町田康先生をお招きしました。当日は学内外から100人規模のお客さまが来場し、とても充実した講演会となりました。また、混声合唱こだま会はコンクールや定期演奏会など精力的に活動しており、大学のホームカミングデーでは卒業生を前に校歌や応援歌を毎年歌っています。こだま会にとって、2017年度は定期演奏会が第50回という節目の年でした。OB・OGと

もに乗るステージでは、一回り上の先輩方とも交流することができ、強く印象に残っています。どちらのサークルも自分の大学生活にとって大事なものであり、サークル活動があるからこそ学業にも集中できたのだと思います。

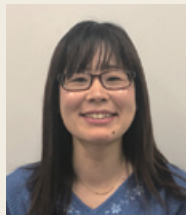
充実した文学部での4年間

私はこの4年間、文学部国文学専攻の学生として、主専攻、副専攻と教職課程、二つのサークル活動を行うことで

さまざまなコミュニケーションに所属し、多くの人と出会いました。そこで経験したもののなかには、自分一人では考えなかったことや成し遂げられなかったことも多くあります。複数のコミュニケーションをもち、交流をしながらたくさんの課題に挑戦することの楽しさを学ぶことができました。

4年間の成果が目に見える形で表された気がして、とてもうれしく感じました。表彰式では文学部の代表として挨拶した際、他学部の代表の方たちの話から、将来を見据えて日々励む彼らの姿勢に感銘を受け、「もつと自分もがんばらなくては」と思い今に至ります。大学を卒業してからも、この4年間で学んだことを誇りに思いながら、将来に活かしていければと思っています。

ブンでもシカク。



文学部事務室
澤田 あかね

From the Faculty of Letters



文学部
だより

今回は、文学部で取得できる資格課程をご紹介します。
文学部では、教職資格のほか、司書、司書教諭、学芸員、社会教育主事の資格が取得可能です。履修の方法については、まず教職課程では3月と6月に新規履修者がガイダンスがあり、履修希望者は参加が必須です(※)。ガイダンスに出席して期間内に手続きを完了すると、次学期より課程がスタートします。最も早く1年次後期から課程履修を開始することができます。

今回は、文学部で取得できる資格の4月から課程がスタートします。こちらは最も早く2年次以降から開始できます。例年1月から2月に出席期間があります(※)。各資格課程の所定科目をすべて修得すると、卒業と同時に資格を取得することができます。特に気になるのは、卒業後の就職先かと思えます。教職以外の資格では、たとえば就職希望先の図書館や博物館、美術館の求人状況(人数や募集年度のタイミング)、求める人材の専門性などがありますので「資格を取ること＝卒業後すぐに専門職に就職できる」ということではありません。たとえば公務員になって、配属先で役に立つ

たという場合もあるようです。そのほか、教養を広げる目的で資格課程をとり、直接その資格の専門職として働くのではなく別の職種であっても、その知識や能力を広く活かしているという卒業生もいます。
ご子女には春休みの時間をご本人のキャリアを考えることにも使っていただき、それに資格課程が加わりそうでしたら、ぜひご活用いただきたいと思えます。

※各手続きの時期や期間は年度によって異なるため、CDLなどのお知らせをよく確認するようにご子女にお伝えください。